

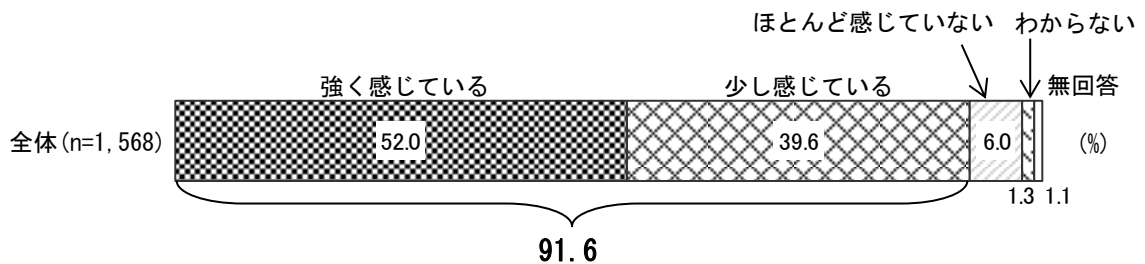
6 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

◇『感じている（計）』が9割を超える

問32 平成23年の東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、揺れや津波により大きな被害が出ました。さらに、令和元年に発生した房総半島台風等の一連の災害では、浸水害や土砂災害など大きな被害が出ました。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかという不安を感じていますか。（○は1つ）

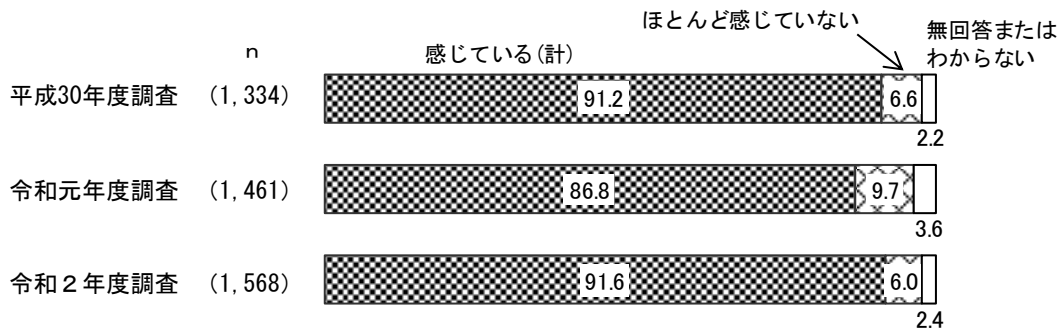
<図表6-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（52.0%）と「少し感じている」（39.6%）を合わせた『感じている（計）』（91.6%）が9割を超えている。

一方、「ほとんど感じていない」（6.0%）が1割未満となっている。（図表6-1）

【参考】平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



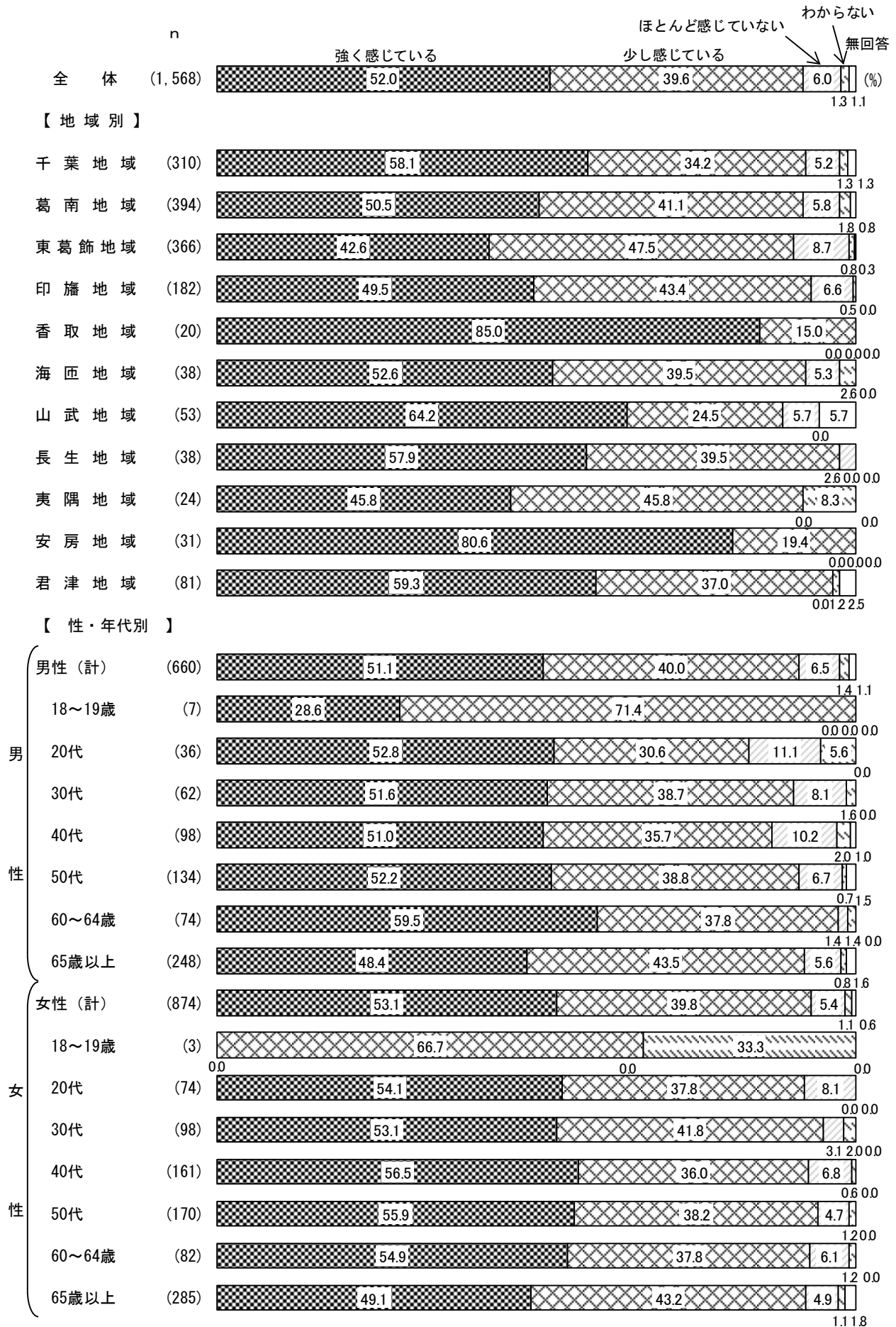
【地域別】

地域別にみると、「強く感じている」は“香取地域”（85.0%）が8割台半ば、“安房地域”（80.6%）が8割、“千葉地域”（58.1%）が約6割で高くなっている。（図表6-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-2）

<図表6-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別



（2）水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法の認知度

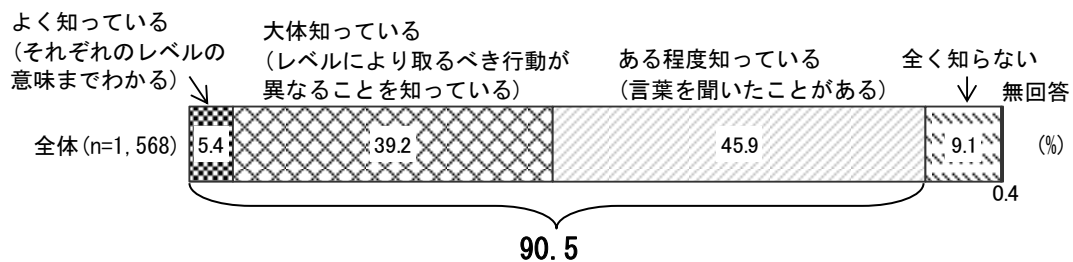
◇『知っている（計）』が9割

問33 水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「危険な場所から高齢者等は避難」、レベル4で「危険な場所から全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法で行われております。

あなたは、各警戒レベルの意味や、その際に取りべき行動について知っていますか。

（○は1つ）

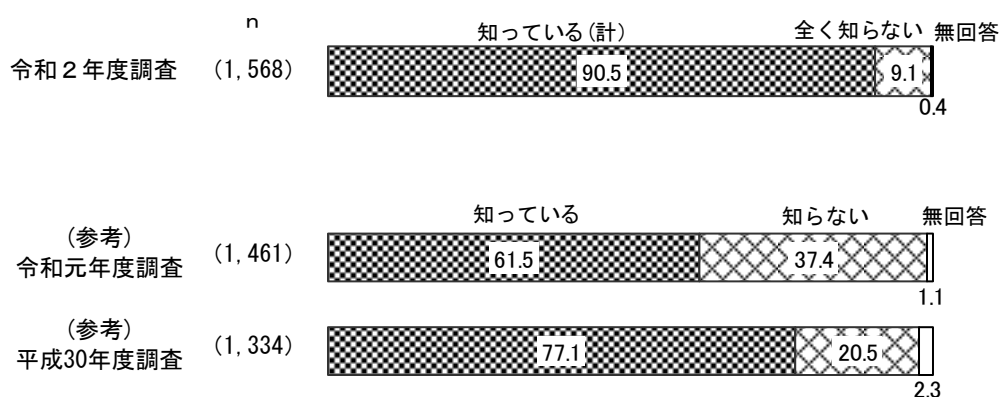
＜図表6-3＞水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法の認知度



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取りべき行動についてを知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（5.4%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（39.2%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（45.9%）の3つを合わせた『知っている（計）』（90.5%）が9割となっている。

一方、「全く知らない」（9.1%）が約1割となっている。（図表6-3）

〔参考〕平成30年度・令和元年度の類似の項目による調査結果（単位：%）



（※）平成30年度調査で、「市町村では、災害から住民を守るために『避難勧告』や『避難指示』を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

（※）令和元年度調査で、「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が、レベル3で「高齢者等は避難」、レベル4で「全員避難」といった、5段階の「警戒レベル」を用いる方法に変わりました。あなたは、そのことを知っていますか。（○は1つ）」と質問した結果を参考に示した。

【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“長生地域”（100.0%）が10割で高くなっている。

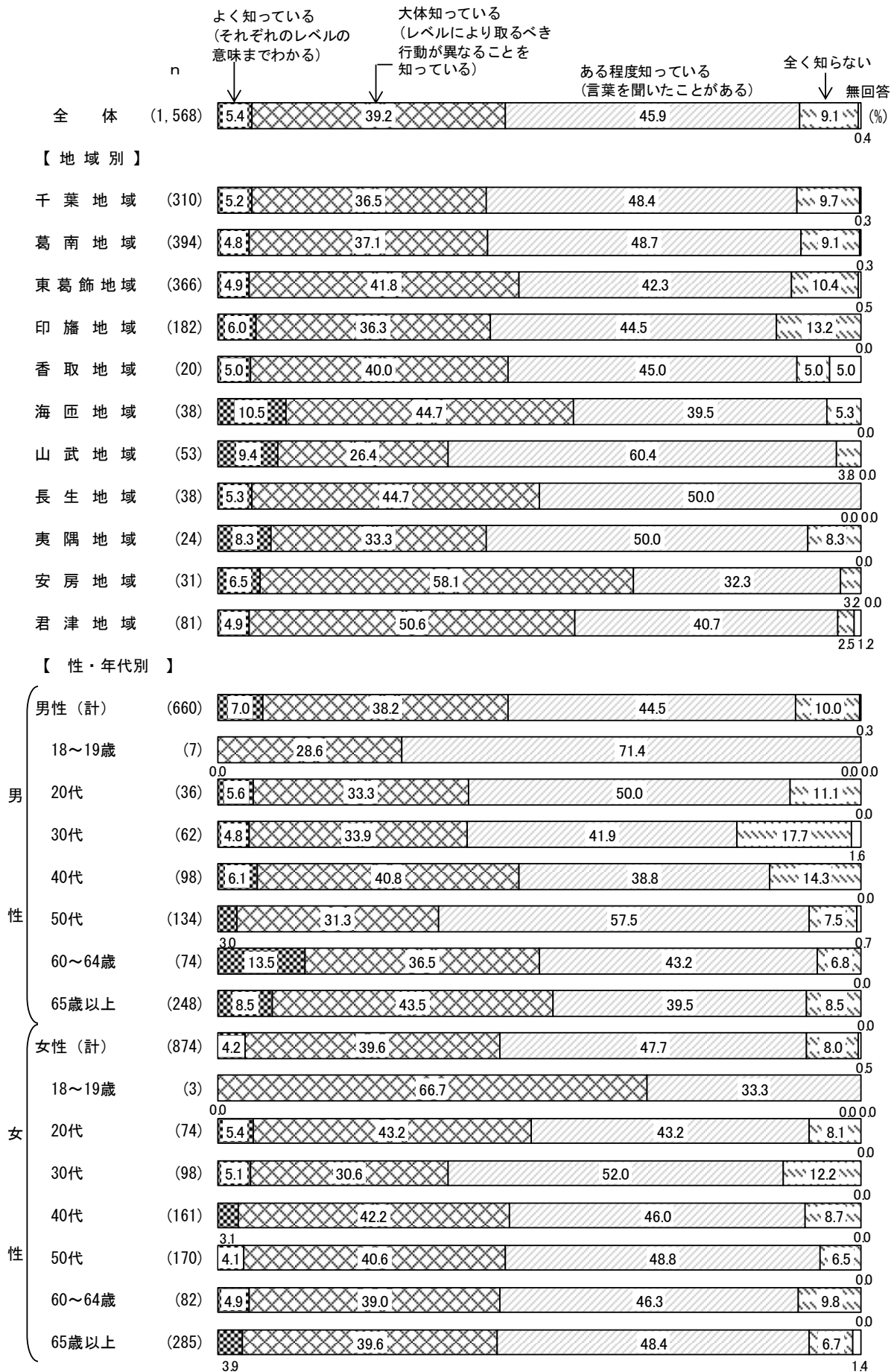
（図表6－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「全く知らない」は男性の30代（17.7%）が約2割で高くなっている。

（図表6－4）

<図表6-4>水害・土砂災害の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いて伝える方法の認知度
／地域別、性・年代別

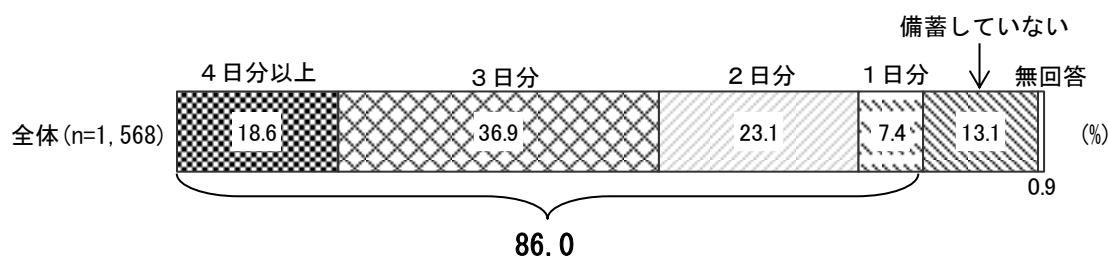


（3）飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が8割台半ば

問34 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）

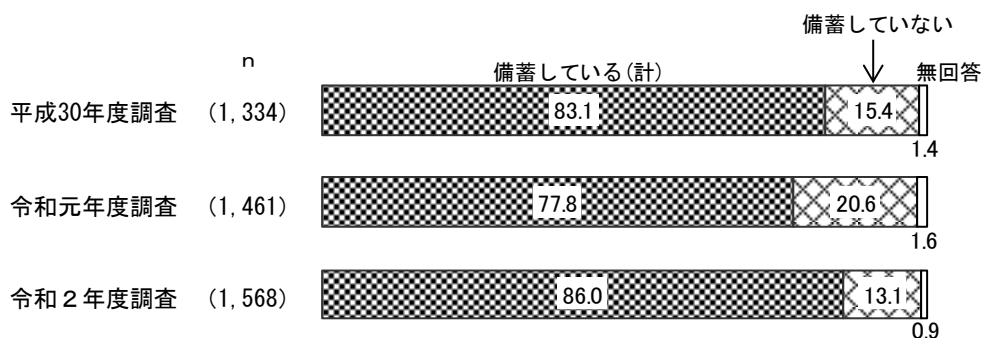
<図表6-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（18.6%）、「3日分」（36.9%）、「2日分」（23.1%）、「1日分」（7.4%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（86.0%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「備蓄していない」（13.1%）が1割を超えている。（図表6-5）

【参考】平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

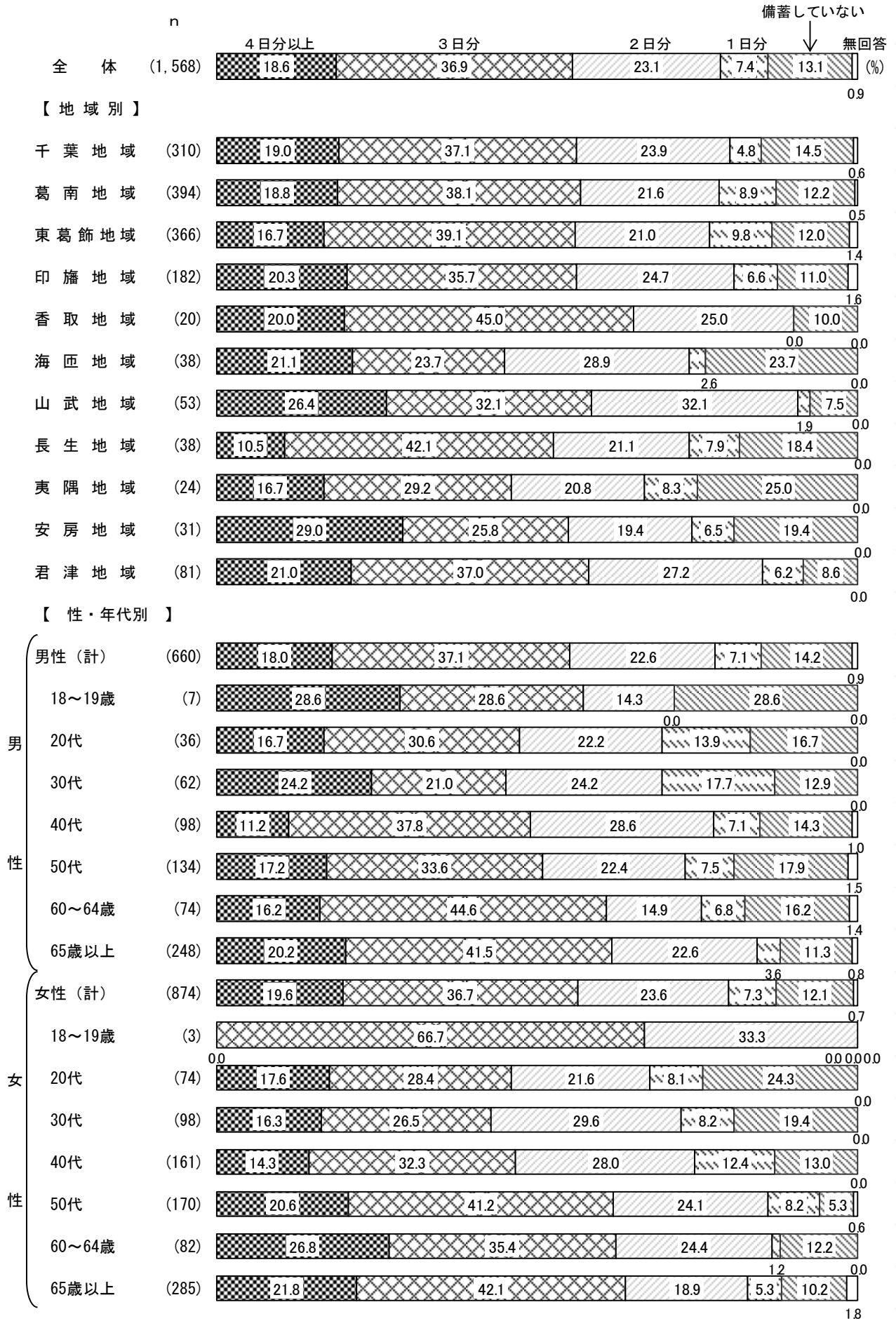
地域別にみると、「備蓄していない」は“海匠地域”（23.7%）が2割台半ばで高くなっている。（図表6-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している（計）』は女性の50代（94.1%）が9割台半ばで高くなっている。

一方、「備蓄していない」は女性の20代（24.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6>飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別



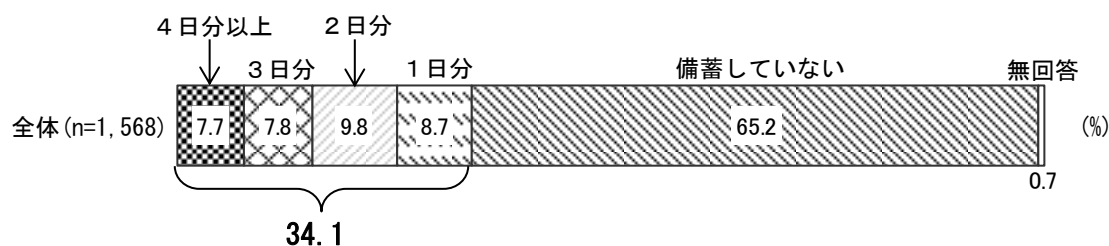
（４）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況

◇『備蓄している（計）』が3割台半ば

問35 大規模な災害が発生した場合、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。あなたは、災害に備えて、家庭での災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は1つ）

※1日分＝1人当たり1日5回分×家族の人数

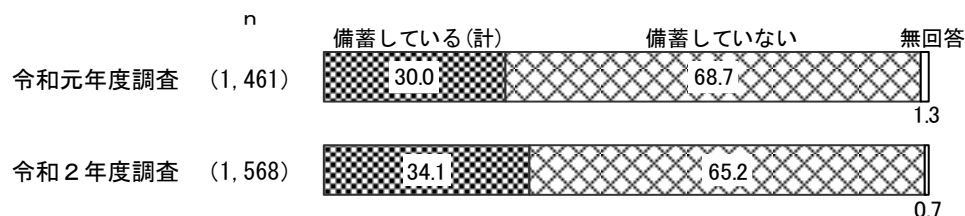
<図表6-7>災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況を聞いたところ、「4日分以上」（7.7%）、「3日分」（7.8%）、「2日分」（9.8%）、「1日分」（8.7%）の4つを合わせた『備蓄している（計）』（34.1%）が3割台半ばとなっている。

一方、「備蓄していない」（65.2%）が6割台半ばとなっている。（図表6-7）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



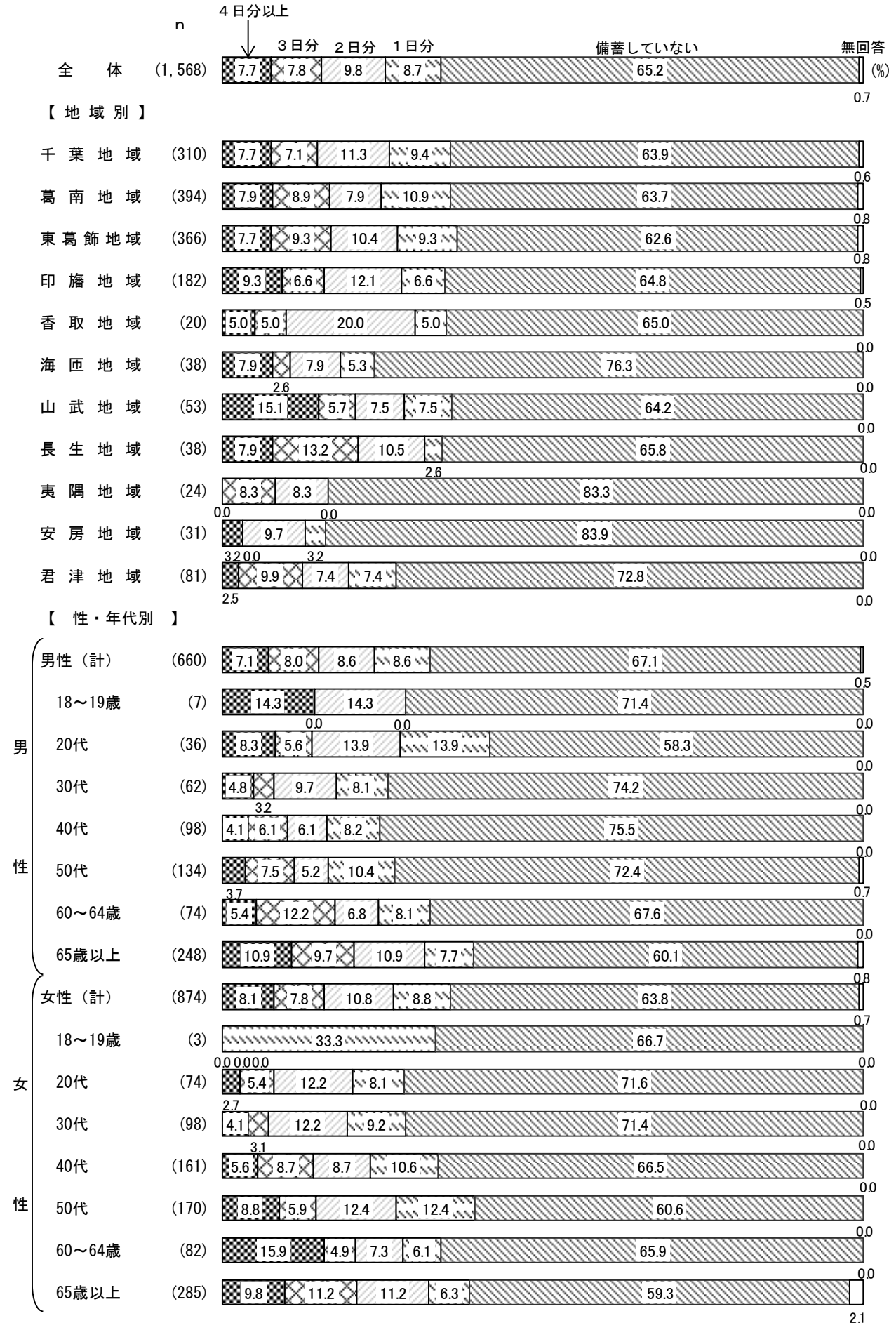
【地域別】

地域別にみると、「備蓄していない」は“安房地域”（83.9%）が8割台半ばで高くなっている。（図表6-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「備蓄していない」は男性の40代（75.5%）が7割台半ばで高くなっている。（図表6-8）

<図表6-8>災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）の備蓄状況／地域別、性・年代別



（5）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

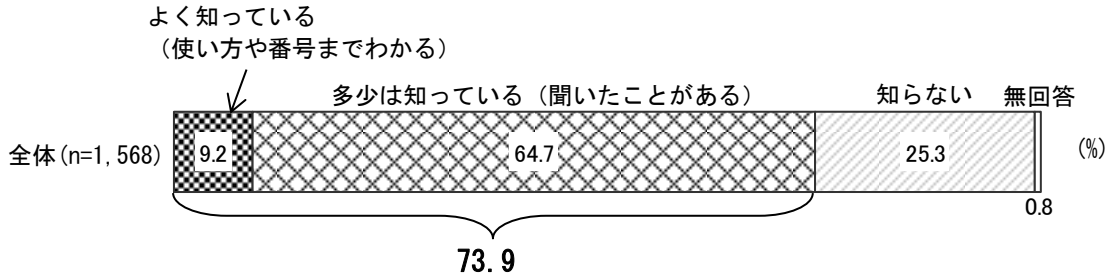
◇『知っている（計）』が7割台半ば

問36 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。

あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。

（○は1つ）

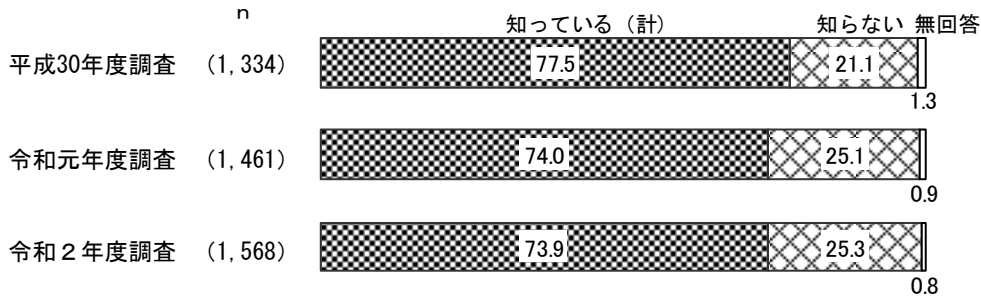
<図表6-9>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」(9.2%)と「多少は知っている（聞いたことがある）」(64.7%)を合わせた『知っている（計）』(73.9%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(25.3%)が2割台半ばとなっている。(図表6-9)

【参考】平成30年度・令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“東葛飾地域” (78.1%)が約8割で高くなっている。

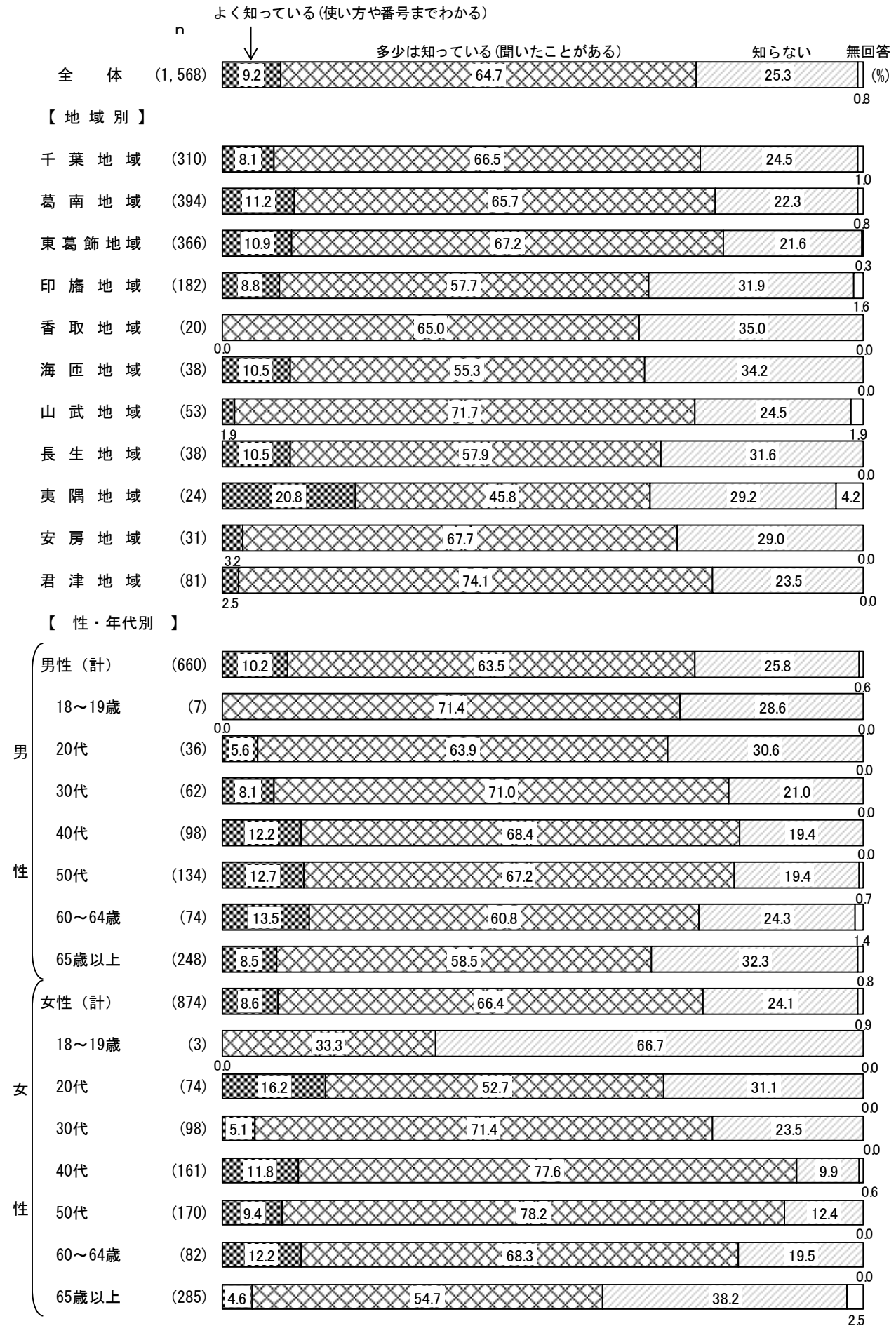
(図表6-10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の40代 (89.4%)と女性の50代 (87.6%)が約9割で高くなっている。

一方、「知らない」は女性の65歳以上 (38.2%)が約4割、男性の65歳以上 (32.3%)が3割を超えて高くなっている。(図表6-10)

<図表6-10>災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別

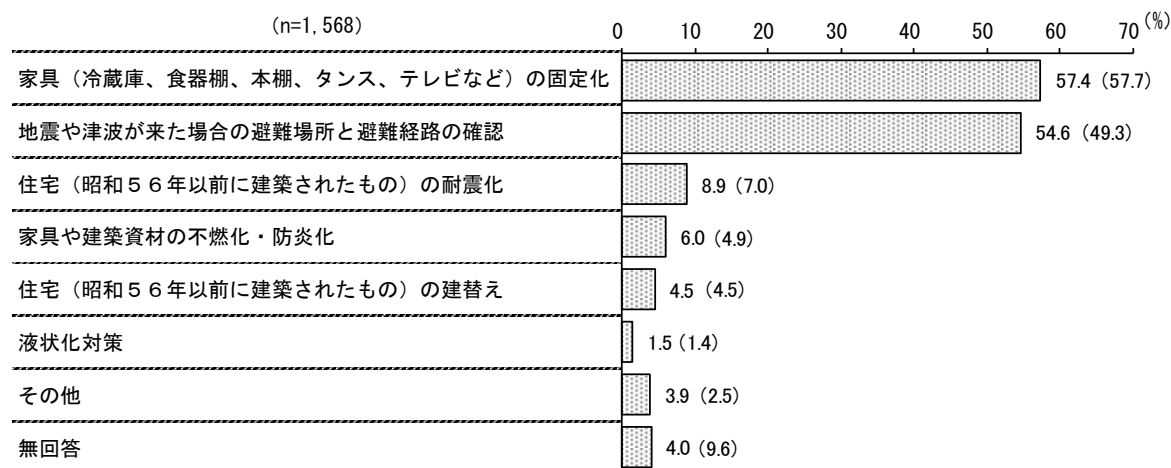


（6）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約6割

問37 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。（○はいくつでも）

<図表6-11>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注) () の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,461

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（57.4%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」（54.6%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（8.9%）が続く。（図表6-11）

【地域別】

地域別にみると、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」は“安房地域”（80.6%）が8割、“山武地域”（67.9%）と“君津地域”（67.9%）が約7割で高くなっている。（図表6-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の65歳以上（66.9%）が6割台半ばで高くなっている。（図表6-12）

<図表6-12>地震の被害を防ぐための対策（複数回答）／地域別、性・年代別

